

夏の終わりに
メキシコの熱いうた
Cálidas canciones mexicanas

峰 万里恵 (うた)
三村 秀次郎 (レキント) 高場 将美 (ギター/MC)
Marie Mine (voz)
Hidejiro "Jiro" Mimura (requinto) - Masami Takaba (guitarra/MC)

1ª parte

1. わたしの不幸の夜 *La noche de mí mal*

作詞作曲：ホセ・アルフレード・ヒメーネス
José Alfredo Jiménez (Dolores Hidalgo, Guanajuato 1926.1.19 - 73 México D.F.)

●ホセ・アルフレードは、すべての曲を自分でうたってつくりました。ラテンアメリカのシンガー・ソングライターとしてはめずらしく——というより、ほとんど唯一の例だと思われま——ギターも弾けませんでした。数々の熱愛と別れをくりかえし、そこからたくさんの真実にあふれたうたを生み出しました。悲しいはずの別れの曲にも不思議なエネルギーがあふれ、この上なく「マチョ」の心情なのに、深く相手のことを思っているのが、彼の偉大さです。

「あなたの名前をまた聞きたくない。あなたがどこに行くか知りたくもない」と、あの夜あなたは言った。——わたしの不幸のあの黒い夜。

もしもわたしが「行かないで」と言っていたら、

どんな悲しい未来がわたしを待っていたことだろう！ もしもわたしが「わたしを捨てないで」と言っていたら、わたし自身の心が、あざけり笑いだしただろう。

だから、あなたの見たわたしは、あんなにおちついて、静かに歩いてきたのだ。青よりも青い空の下を。

そのあとは、もうおわかりでしょう。わたしはできるところまで我慢しつづけた。そして最後には海のように涙を流した。あなたに見えないところで。

2. また忘れてしまった *Se me olvidó otra vez*

作詞作曲：フワン・ガブリエール *Juan Gabriel (Parácuaro, Michoacán 1950)*

●フワン・ガブリエールは、先のホセ・アルフレードが「私の後継者」と認めたランチェーラ作者です。ザ・ビートルズが世界のポピュラー音楽を変革した以後の世代に属しています。地方のナイトクラブで『アドーロ』などのロマンティックなバラードをうたって歌手になり、どん底の不遇時代を経て、最初のヒット曲は『ぼくにはお金がない』。『また忘れてしまった』は、彼のお姉さんの愛のドラマから生まれた曲だそうです。

おそらくもう、わたしのことを、あなたは忘れてしまったろう。それでもわたしは、あなたを待ちつづけよう。わたしは出て行きたくない。いつの日か、あなたが帰ってきたくなったら、わたしを見つけてくれるように。

だからまだわたしは、いつもの場所にいる、おなじひとびと。帰ってきたあなたが、変わったことにはなにも出会わないように。すべてがきのうのまま、もう決してあなたがわたしたちを置いていかないように。

おそらくわたしは多くを求めすぎているのだ。わたしはもう忘れていた、わたしたちが終わってしまったことを、あなたが二度と帰ってこないだろうことを、あなたが一度もわたしを愛さなかったことを。

そしてまた、わたしは忘れてしまっていた——ただわたしだけが、あなたを愛したことを。

3. パーモノス (さあ行こう) *Vámonos*

作詞作曲：ホセ・アルフレード・ヒメーネス *José Alfredo Jiménez*

●ホセ・アルフレードの最初の熱愛のとき、彼は首都の郷土料理レストランのウェイターをしていましたので、「そんな生活不安定の貧乏人に娘はやれない」と相手の両親から拒否されて結婚できませんでした。この曲は、ずっと後になって、彼がもうメキシコ最高の作詞作曲家として、また歌手としてもスーパースター級になってからのものですので、べつの女性にうたっているのかもしれませんが。

わたしたちは同等ではないと、人々は言う。あなたの人生とわたしの人生は失われてしまうだろうと。わたしは、ならず者だと。あなたは、まともだと。ふたつの異なる存在は、愛し合うことはできないと。

でもわたしは、もうあなたを愛した。そしてあなたを忘れない。あなたの両腕の中で死ぬのが、わたしの

夢。わたしは、社会階級なんてことはわからない。ただわたしの知っているのは、あなたがわたしを愛していること、そしてわたしもあなたを愛していること。

さあ行こう、だれもわたしたちを裁かないところへ、だれもわたしたちが悪いことをしていると云わないところへ。

さあ行こう、世界から遠く離れて、法律もなにもないところへ。そこにあるのはただ、わたしたちの愛。

……わたしたちは同等ではないと、人々は言う。

4. ムーチョ・コラソン (ありあまる心) *Mucho corazón*

作詞作曲：エマ・エレナ・バルデラマール *Emilia Elena Valdellamar (Aguascalientes 1925)*

●作者エマ・エレナ・バルデラマールは、スターというには程遠い存在ですが（本人も有名になる気はなかった）女性歌手。作詞作曲家としては、1940年代末ごろから、専門家たちのあいだで、たいへん高く評価され、尊敬され、愛されてきました。自分のすべてを与える、という彼女の人生の一貫したテーマによるこの曲は、時代の流行を超えた傑作ボレーロです。

言いなさい、あなたは見つけましたか？ わたしの過去のなかに、わたしを愛する理由を、それとも、わたしを忘れる理由を。——あなたは愛情を求め、あなたにつごうのいいときは忘れることを求める。あなたのもっているものを、心と呼ん

ではいけません。

わたしの過去のことを、あなたはすべて知りたがって、たずねる。人は愛する前に、信じなくてはいけないのに。

ひとつの愛のために、命そのものを与え、でも死なない。それが愛情というもの。あなたの中にあるものとはちがう。

わたしは愛するために、理由なんか必要ではない。わたしにはあり余っている、いっぱい、ほんとうにいっぱいの、心が。

5. ラ・ジョローナ (泣き女) *La Llorona*

オアハーカ州民謡 *Folclore oaxaqueño*

●ラ・ジョローナ (泣き女) が初めて姿を見せたのは500年ほど前のメキシコ首都のようですが、アメリカ合衆国のテキサスやニューメキシコ州から、南アメリカ大陸の南端チリに至るまで、スペイン=先住民混血文化の各地に、今日まで出現しつづけている女性の亡霊です。土地により、言い伝えにより違いはありますが、満月の夜、水辺に現れる、顔にヴェールをかぶった白衣の女性で、恐ろしい泣き声をあげます。多くの場合、スペイン人に幼いわが子を殺された先住民の女性です。また、しばしば死神の一種と考えられています。

この民謡の歌詞はたくさんあり、亡霊と直接結びつかないものも多いです。でもつねに悲しい素朴な愛をうたっています。

みんながわたしをネグロ (色の黒い男) と呼ぶ、ジョローナ。黒いけれど、わたしは愛情深い。わたしは緑のチレ (とうがらし) みたい、舌を刺すけど味はいい。——アイ、悲しいわたし。空の青さのジョローナよ。たとえ命をなくしても、わたしはおまえを愛すのをやめない。

ある日、教会から出てくるおまえを、通りすがりのわたしは見た。美しいウィピル (先住民女性の袖なしブラウス) を着た姿、わたしはマリア様だと思った。——アイ、悲しいわたし。ユリの野のジョローナ。恋のことを知らない者は、みずからの命をささげる殉難のことを知らない。

わたしがおまえを愛しているのなら、もっと愛してほしいと言うのか。もう命もあげたのに、これ以上何がほしい？——アイ、悲しいわたし。ジョローナ、わたしを川へ連れて行っておくれ。おまえのショールをかぶせておくれ。わたしは寒さに死んでゆく。

6. あなたに幸せな人生を *Que te vaya bonito*

作詞作曲：ホセ・アルフレード・ヒメーネス *José Alfredo Jiménez*

●ふつうのスペイン語では、「お幸せに!」「あなたに、いいことがありますように!」というとき、「ケ・テ・バージャ・ピエン」と言います。この最後のことばを「ボニート=きれい、美しい」と言い換えた表現は、ホセ・アルフレードが南アメリカのコロンビア(?)あたりから仕入れてきたらしいのですが、この曲によって、メキシコの民衆語法のひとつになってしまいました。また、メキシコ人があらゆる場面で口ぐせのように使う言いまわし「ニ・モード! =どうにもならない! あきらめるしか仕方がない!」を見事に生かしたあたり、民衆詩人ホセ・アルフレードの、ことば感覚の冴えが光っています。

あなたを、すてきなことが待っていますように祈ります! あなたの悩みが終わりますように! 人があなたに、わたしなんか存在しないと言いますように! あなたがもっとよい人たちと知り合

いになりますように!

わたしがあなたに上げられなかったものを、あなたがもらえますように! ——わたしは持っているすべてをあなたに上げたのだけれど。わたしは二度と決して、あなたに迷惑をかけないだろう。あなたに熱愛を捧げ、そしてあなたを失った。もう、仕方がないじゃない!

どれほどたくさんのものが、わたしの魂の底に付いて残ってしまったことだろう! どれほどたくさんの光を、あなたはともしていったことか! わたしにはどうやって消せるのかわからない。

あなたには、すてきなことが待っていますように!

7. 古い愛というものは *Un viejo amor*

作詞：アドールフォ・フェルナンデス・ブスタマンテ *Adolfo Fernández Bustamante*

作曲：アルフォンソ・エスパールサ・オテーオ

Alfonso Esparza Oteo (Aguascalientes 1894 - 1950 México D.F.)

●作曲者オテーオは、メキシコの民衆音楽の重鎮で、最初は父親から、後に数々の教授からピアノと音楽の教育を受けました。メキシコ革命の時代には軍人として活躍(?)、教会のオルガン奏者で宗教音楽を作曲した時期もありましたが、1920年代からメキシコ首都に住み、民衆音楽・フォルクローレのオーケストラ指揮者、作曲家として大きな足跡を残しました。メキシコ初の本格的ラジオ放送局XEWの音楽監督もつとめました。この曲は22才のときつくったと伝えられています。

作詞者は、サイレント映画の時代から俳優で脚本家、1940年代には監督もしたようです。

恋の悩みのように、深くて黒いふたつの大きな

目によって、わたしはあこがれることを知り、喜びと失意を知った。ある日、その目から去ってきたとき、目はわたしに、泣きながら、こう言っていた——わしを忘れないで、命のひと、わたしがあなたにうたっている、このことを……

古い愛というものは、忘れることも、置いてくることもできない。古い愛は、わたしたちの魂から、そう! たしかに遠ざかってはゆく。でも決して、さようならは言わない。古い愛というものは……



作者たち

上段左から——ホセ・アルフレード・ヒメーネス / フワン・ガブリエル / エマ・エレナ・バルデラマル / アルフォンソ・エスパールサ・オテーオ

下段左から——トマス・メンデス / アルマンド・マンサネーロ / タタ・ナチョ

●メキシコ音楽作詞作曲家協会サイトより
www.sacm.org.mx

1. 夜明けのくちづけ *Amanecí en tus brazos*

作詞作曲：ホセ・アルフレード・ヒメーネス *José Alfredo Jiménez*

●ホセ・アルフレードがつくった非常に多量の曲のなかでも、きわだって甘美な曲です。表現があまりにも官能的だと物議をかましたようです。彼としては、もう熟年にさしかかっていた時期の、ある愛の歌……。

わたしはふたたび夜明けをむかえた、あなたの両腕のなかで。そして目を覚ました、喜びで泣きながら。わたしはあなたの両手で顔を隠した、あなたを愛しつづけるために、まだ……。

あなたはほとんど眠ったまま目を覚ました。そして、わたしにはわからない、なにかを言いたそうにした。でもわたしはキスでああなたの口を黙ら

せた。そして、そうしてたくさんの、たくさんの時間が過ぎた。

夜がやって来たとき、月が現れ、窓から入ってきた。なんと美しいもの！ 空の光があなたの顔を照らした。

わたしはふたたび、あなたの両腕のなかに入りこんだ。ああなたは、わたしにはわからない、なにかを言いたそうにした。でもわたしはキスでああなたの口を黙らせた。そして、そうしてたくさんの、たくさんの時間が過ぎた。

レキント Requinto と呼ばれるギターは、スペインとラテンアメリカ各地の民俗音楽に使われ、数種類ありますが、ジローさんが弾いているのは、トリオ・ロス・パンチョスのアルフレード・ヒルが1940年代に創案したタイプのもので、クラシック・ギターの甘く深い音色を失わずに、より高音の華やかさを求めてつくられました。一般のギターの最低音は「ミ」、レキントはその上の「ラ」に調弦されます。弦の張りが強いので、音に切れ味が出る一方、音色が薄っぺらにならないように、共鳴胴はふつうのギターより厚くなっています。

2. ククルククー・パローマ *Cucurrucucú paloma*

作詞作曲：トマース・メンデス *Tomás Méndez (Fresnillo, Zacatecas 1927 - 1995 México D.F.)*

●作曲家トマースの父親は鉱山労働者で、職業病の肺炎で早く亡くなりました。トマースは物心ついたころから、よその家に住み込みで家事の仕事をしました。学校ではかしこい子で、ことばの知識がとくに優秀でした。いつも口笛を吹いていたそうです。十代でもう失恋の曲をつくり、口伝えで、町の売春酒場でヒット(?)したとのこと。やがて首都に出て、ラジオ放送局のスタジオで拍手の合図をする役、《ロス・トレス・ディアマンテス》のMC・マネージャーなどの仕事をを経て、1950年代初めに作者としてRCAレコードに契約されました。とくに女性歌手ローラ・ベルトランが彼の曲の最高の表現者になり、この曲をはじめ数々のヒットが生まれました。

人は言う——彼は夜ごと夜ごと、ただ泣いていた。眠らないで、ただ飲んでた。人は誓って言

う——空にまで彼の泣き声が聞こえ、空も震えた。彼女ゆえにどんなにくるしんだことか！ 死ぬときも、彼女の名を呼びながら行った。

……町はずれの小さな一軒家に、朝早くから、鳩が1羽、うたいにやってくる。人は誓って言う——あの鳩は彼の魂、まだ彼女を待っているのだと、不幸をもたらす女が帰ってくるのを。

ククルククー……鳩よ、泣くな！ 石になんか決して愛のことはわからない。

3. 巨大なへだたり *La enorme distancia*

作詞作曲：ホセ・アルフレード・ヒメーネス *José Alfredo Jiménez*

●全曲を笑顔でうたうことのできる、ホセ・アルフレードにはめずらしく、ただただしあわせな曲です。「巨大な距離」でへだてられているという、大げさな言いかたが、実感がこもって笑えます。いまは離れていても、すぐにまた一緒にいられるのが、わかっているのでしょうか。

わたしはあなたから、こんなに遠くにいます。そして巨大なへだたりにもかかわらず、あなたをわたしの、すぐそばに感じる。心と心、魂と魂。そしてわたしの存在の中に、あなたのキスを感じる。あなたがどんなに遠くにいても関係なく。

わたしはあなたの愛のことを考えている。そし

て頭が変になったように、あなたとおしゃべりする。あなたにわたしの痛みを語る。そしてあなたは、わたしを幸せにしてくれるけれど、そのことはあなたには教えない。

空が明るくなって来る。そしてわたしの両目は夢でいっぱいになる。わたしはあなたの夢を見よう。なぜなら、人が好もうと好むまいと、わたしはあなたの主人なのだから。わたしにはいつも、あなたのキスがあるだろう、あなたがどんなに遠くにいても。

……わたしはあなたの愛のことを考えている。

4. ラ・ブルーハ (魔女) *La Bruja*

ベラクルース州民謡 *Folclore veracruzano*

●ベラクルース市は、カリブ海・大西洋に面した大きな港町で、メキシコのなかでもきわだって熱帯の解放感にあふれた土地です。どことなくアフリカの色もあります。「ビーバ・ラ・ビーダ (人生ばんざい!)」というのが市のモットー(?)らしいです。この曲にはさまざまな歌詞がありますが、民話が元だそうです。歓楽の館の空気も感じますね。謎めいた歌詞が、不可解さの魅力で、聴くものを魔法にかける……といったら、少し大げさでしょうか？

アイ！ 朝の2時に、飛ぶのはなんとすてき！
飛んでそのまま落ちてゆく、とあるご婦人の両腕
のなかに。泣きたくなるよ、アイ、ママ！

魔女がわたしをつかまえて、家に連れてゆき、
わたしを植木鉢とヒョウタンに変えてしまう。わ

たしをお部屋に連れてゆき、彼女の両脚の上にする
わらせ、キスを食べさせてくれる。

アイ！ 塩辛い海の真ん中で、わたしはびっくり、
恐ろしかった！ 話には聞いていたけど信じて
いなかった。上のほうは女性、下のほうは魚、
アイ、ママ！

「アイ、教えてくださいませ。あなたはゆうべ、
何人の赤ん坊を吸い取ってしまったんですか？」
「ひとりも吸い取っていませんよ、覚えていない
けれど。わたしの狙いは、あなたを吸ってしまう
こと」

5. あなたから学んだ *Contigo aprendí*

作詞作曲：アルマンド・マンサネーロ *Armando Manzanero (Mérida, Yucatán 1935)*

●ボレーロはロマンティックな、ギター伴奏のうたの1ジャンルで、19世紀にキューバ東部で生まれました。それがカリブ海を渡って、メキシコでは、最初にユカタン州の中心メリダ周辺に伝わりました。1940年代後半から、ほとんどボレーロの専門家になったトリオ・ロス・パンチョスの活躍で、全ラテンアメリカ、そして世界ちゅうで愛されるジャンルになりました。

ピアノ弾き語り歌手のマンサネーロは、1960年代から、若い今日的感觉を加えたボレーロ (リズムは既成のパターンにとらわれない) で、『アドーロ』などの作詞作曲により、やはり世界的に成功。彼は、90年代になると、さらに若い歌手ルイス・ミゲールを起用して、こんどはプロデューサーとして、ボレーロのロマンティックな世界をリヴァイヴアルさせました。

わたしはあなたから学んだ。新しい、もっとすばらしい、さまざまな感動があることを。新しい

夢の世界に生きることを。

わたしは学んだ、1週間には7日以上あることを、わたしの数限られた喜びをもっと大きなものにする

あなたから学んだ、月の向こう側にある光を見ることを、ひとつのキスがもっと甘く深いものになれることを、明日にでもわたしはこの世界から出て行けることを。

さまざまないいことを、わたしはあなたといっしょに生きた。そして学んだ、あなたを知ったその日に、わたしが生まれたことを。

6. パローマ・ネグラ (黒い鳩) *Paloma negra*

作詞作曲：トマース・メンデス *Tomás Méndez*

●鳩の曲の第一人者(笑)——『ククルククー・パローマ』のトマース・メンデス作です。西洋では、家族のやっかいもの、呪われたような異端児を、「黒い羊」と呼びますが、そんなニュアンスも含んだタイトルです。なお、トマースは、口笛は上手だったかもしれませんが、うたとギターはダメでした(レコード録音はしたようですが)。

もうわたしは泣くのに疲れた。そして夜明けは来ない。わたしにはわからない、あなたを呪ったらいのか、それともあなたのために祈るのか。

わたしはこわい、あなたを探しに行き、そして見つけるのが。時にはわたしは、自分を割ってしまいたくなる、わたしを閉じこめている牢屋の釘を引き抜くために。

でも、わたしの目は、あなたの目を見ないと死んでゆく。そしてわたしの愛情は、朝の光とともに、あなたをふたたび待っている。

あなたは自分から望んで、酒場の歓楽の世界を選んだ。黒い鳩、黒い鳩、どこにいるのか？ わたしはあなたを愛して頭がおかしくなっているけれど、もう帰ってこないでください。黒い鳩、あなたは牢屋の鉄格子。

わたしは自由になりたい、じぶんの人生を生きたい、わたしを愛してくれるひとと。神様、わたしに力をください！ わたしはそのひとを探しに行くために死んでしまいそうです。

7. アディオス・ミ・チャパリータ *Adiós, mi chaparríta*

作詞作曲：タタ・ナチョ *Tata Nacho* (Oaxaca 1894 - 1968 México D.F.)

●作者（本名イグナーシオ・フェルナンデス・エスペロン）は、すぐれた民衆音楽家の家系のひとりで、ピアノほか専門の音楽教育を受けました。民俗音楽の調査・研究家でもあります。作者の権利を守る著作権団体、メキシコ音楽作詞作曲協会の創立者のひとりで、会長もつとめました。

タイトルの「チャパリータ」は、メキシコのスペイン語では、背の低い女性のことです。辞書には、背が低くて太った、とありますが、メキシコでは太ったというニュアンスは入りません。全体で「さようなら、わたしのおチビちゃん」というくらいの意味です。

《バヒーオ》地帯は、メキシコ中部のたいへん広い豊かな土地で、農牧が盛んです。マリアッチやテキーラを生んだハリスコ州も、その一部です。この曲は、より貧しい土地から、バヒーオに出かせぎに行く男のうたでしょう。幸せな内容のはずなのに、うたや演奏には、楽しくやっているのですが、どうしても哀愁が入ってしまいます……。

さようなら、わたしのチャパリータ。きみのパンチョのために泣かないでくれ。この家から出

て行っても、すぐに帰ってくるんだから。バヒーオから、きみにすてきなものをもって来るよ。キスひとつ、それできみは、すぐに悩みを忘れてしまおう。

君のお下げ髪のためにリボンを買ってくる。きみのママには ビーズ編みのショール、それにキャラコのペチコート。アイ・ケ・カライ（ほんとにね！）

泣かないでくれ、わたしはうたいながら行きたい。涙はわたしを病気にする。わたしたちは、いつも楽しかった。帰ってきたとき見てほしい、田舎男の太陽のような笑顔を。

言っておくれ、その男はどんなに遠くへ行っても、いつも彼の田舎娘を、心にくっつけて行くと。アイ・ケ・カライ！

ごいっしょにひとときを過ごしていただき、ありがとうございました。
またお会いできるのを楽しみにしております。

企画：峰 万里恵／倉持将晴（アップリンク）

選曲・構成：峰 万里恵

音響：中居 ももこ

背景／プログラム作成：高場 将美

●ホームページ——今後ともどうぞよろしく——

<http://www.uplink.co.jp/factory/>

<http://mariemine.web.fc2.com/>



フィエスタ・メヒカーナ

FIESTA MEXICANA 2008

in お台場
TOKYO

9月20日（土）21日（日）今年で9回目の「フィエスタ・メヒカーナ」に、ぜひ遊びにおいでください。入場無料です。「太陽の広場」では11時～19時ノンストップ、「アクアシティ」6階では随時、多彩なアーティストのライブがあります。三村秀次郎（実行委員長です！）、峰万里恵（お手伝いでも出演します（ショーのスケジュールは直前まで未定です））。タコスやビール、民芸品、食材などのテント市場は壮観ですよ！毎年、メキシコはもちろんラテンアメリカ各国から日本に来ている人たちが、たくさん見えて、盛り上がります。「ゆりかもめ」に乗ってラテンの別天地へどうぞ！